

単元（題材）について

1 単元名

よりよい人間関係とは

2 「必ず指導する基本的事項」との関連

区分	I-6 生命（いのち）の安全教育
目標	生命を大切にすることを理解し、性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないようにする。
内容	自分と相手を守る「距離感」を大切にすること。

3 教材化の視点（身に付けさせたい資質・能力）

高校生活における暴力行為は、人間関係が広がる中で、同級生、交際相手、部活動の先輩・後輩のほか、指導者等、身近な人から受ける場合がある。性暴力も例外ではなく、大人に相談することが難しいケースが多いため、被害者が一人で抱え込むといった傾向がある。暴力が起こる背景について学び、自分自身に加え、他者を尊重することにより、加害者、被害者、傍観者にならないための思考や態度を身に付けさせるとともに、自分が被害に遭った場合に信頼できる大人に話す等、対処の方法を身に付けさせたい。

指導計画（1時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい人間関係とはなんだろうか。 ○距離感について考える。 ○セクシャル・ハラスメントの事例を見てみよう。 	◎距離感とは、全ての人自分が決めることができるものであり、相手に求めることはできないことを理解させる。

指導の工夫

ワーク1にて、よりよい人間関係についてキーワードで考えることで、学習の振り返りで自分の考えをまとめやすいように工夫した。また、ワーク2では、身近な「体の距離感」を考える例として、4人席の座席を用いて、能動的な「自分が座りたい席」と受動的な「相手に座ってもらいたい席」の両方の考えをグループで共有することで、「自分の距離感」と「相手の距離感」の存在を理解させるようにした。ワーク3では、グループで役割分担を決めて考えを交流させることで、セクシャル・ハラスメントを客観的に捉えさせ、身近な性暴力に気づき、対処できる力を身に付けさせたい。

指導事例（第1時／1時間）

1 ねらい

全ての人が自分だけの距離感をもっていることに気付き、距離感を守るための言動を具体的に考え、相手の立場に立った、よりよい（望ましい）人間関係を構築しようとする態度を養う。

2 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○学習上の注意点を確認する。 ○授業のねらいや全体像を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習中に体調がすぐれない際は、退室してよいことを伝える。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい人間関係について自分の考えをまとめ、グループで共有する。(ワーク1) ○具体的な場面を例示し、体の距離感について考える。(ワーク2) ○暴力や性暴力の例から、自分の気持ちも相手の気持ちも尊重することの大切さを考える。(ワーク3) ○性暴力を未然に防ぐためにはどうすればよいか、意見を出し合う。 ○性暴力の被害にあった時の対処の仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎性的な話題は、自分が思っている以上に相手を傷付けることが多いことに気付かせる。 ◎文部科学省の教材「生命（いのち）の安全教育教材（高校）」を使って、事例について伝え合う場面を設定する。 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">大切な心と体を守るために</p> <p style="text-align: center;">学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ● よりよい人間関係を築くために ● 性的な暴力とは？ ● 性暴力の被害にあっては...  </div>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○スローガンをつくる。 ・「よりよい人間関係を築く上で大切なこと」 ○本時を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■よりよい人間関係を築く上で距離感を意識することは重要であることを理解する。

生徒の学習状況

3～5人のグループに分かれて学習した。個人ワークでは、短い時間で自分の気持ちを書いた。グループワークでは、司会が意見を聞き出してワークシートに記入し、各グループが考えたスローガンを発表した。自分と他人は違うということに触れたグループが少なかったため、ケースワークの趣旨を最後に補足した。生徒の印象に残ったワードはセクシャル・ハラスメントが多かった。

生徒の変容

学習のまとめで、生徒は「相手は自分と違う距離感をもっていることを知った。」「正直『これくらい』と思ってやってしまったことがあった。」「自分のことしか考えない発言はトラブルになる。」「こんなことで悲しむのかと思った。でも、相手が悲しいことは事実だと思った。」などの感想をもつことができた。